

留 学 報 告 書

記入日： 年 月 日

所属学部／研究科・学科／専攻	政治経済学部経済学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文：スタンフォード大学 現地言語：Stanford University
留学期間	2019年6月～2019年8月
留学形態	大学間/学部間協定留学
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学しようと思った理由	私が留学をしようと思った理由は、自分の学部外のことを高いレベルで学んでみたかったからです。海外の大学では、専攻がないことが多く、あったとしても他学部の授業を自由に選択できます。そのため、教養以上の他学部授業を自由に受け、学ぶことができます。私が個人的に興味がある分野は私の専攻とあまり関係なく、大学で学ぶことが難しかったので、留学を通してそれを学ぼうと考えました。また私の興味ある学問は、海外の方が研究が進んでいるため、留学をしたほうがより高いレベルで学べると考えました。これらのことから私は留学をしよう決めました。
留学のためにした準備、 しておけば良かったと思う準備 (効果のあった勉強法や教材、留学準備に役立った授業等)	私が留学してから、準備面で一番後悔したことは、抽象度の高い科目の予習をしなかったことです。抽象度の高い学問は、外国語以前に日本語で学ぶことで、困難を極めます。そういったものを母国語の理解を飛ばし、いきなり自分の母語以外で理解しようとするには多大な時間と労力が必要です。私はこの準備を怠ったため、留学中は1科目に費やす時間が増え、履修科目を予定よりも減らす必要がありました。したがって、留学中の学びをより充実したものにするには、事前の予習が肝要だと思います。
この留学先を選んだ理由	私が本大学に留学を決めた理由は、人工知能を世界の最先端研究機関で学んでみたかったからです。スタンフォード大学は理系分野、特に人工知能の分野では世界のトップランナーの一つであり、人工知能界の著名な教授が数々在籍しています。また地理的にも、シリコンバレーに非常に近く、人工知能の発展を引っ張っている世界の名だたる企業がここに本社を置いて日々情報を交換したり、互いに研鑽し合ったりしています。したがって、ここで人工知能を学ぶことは、学問のみならず、情報という側面でも人工知能の最先端に触れることができるのです。以上のことから、私はスタンフォード大学に留学することを決めました。
大学・学生の雰囲気	大学は穏やかで気候の良いカリフォルニアにあることから、学内の雰囲気也非常に穏やかで、大変恵まれた環境下で勉強をすることができました。また現地の学生は気さくな人が多く、好意的な印象を受けることが多かったです。一方勉強面では、皆真面目に勉学に励んでおりメリハリもしっかりしていました。このような場所で勉強することは、環境面でのストレスも少なく、かつ人からはいい刺激を受けることができたので、大変魅力的な雰囲気を持つ大学だと感じました。
寮の雰囲気	寮には世界各国からきた留学生が住んでおり、日々違う文化や考え方に触れることができ、飽きを感じられない寮生活になりました。また寮内には ra という寮生の生活面から勉強面まであらゆることの面倒を見てくれるリーダー的な学生がおり、様々な交流の機会や勉強の手伝いをしてもらったので、悩みや不満をためることなく生活をすることができました。
交友関係	私は共通の授業や同じ分野の授業をとっている生徒、もしくはルームメイトのオーストラリア人のコミュニティと時間を共にすることが多かったです。私はあまり社交的な方ではないのですが、授業内では必ず他の生徒と話すので、そこを通じて、話が合ったり、面白い人と仲よくなれる機会がありました。また、仲良くなった人の紹介で他の人とも話す機会を作れたので、交友関係が苦勞することはあまりありませんでした。他にもルームメイトが気さくな人で交友関係がひろいこともあったので、彼と行動を共にするだけで、自然と友人が増えていきました。

困ったこと、大変だったこと	私が留学先で苦労したことは、抽象度の高い科目の履修です。抽象度の高い学問は、外国語以前に日本語で学ぶことですら困難を極めます。そういったものを母国語の理解を飛ばし、いきなり自分の母語以外で理解度を深くするには多大な時間と労力が必要です。私は、そういった科目を事前に日本で予習することなく選択していたので、勉強や調べ物に費やす時間が増え、大変でした。
学習内容・勉強について	私は哲学、情報学、言語学などの抽象度の高い学問の知識が必要な科目を選択していたので、その予習復習に必要な時間と労力は多かったです。また、授業後に先生に質問をする時間があったのですが、何がわからないかを判断するのにある程度の理解が必要で、授業は高い集中力を維持して臨む必要がありました。一方、授業後に先生への質問でいい質問をしたり、自分の考えに興味を持ってもらえることもあって、それらがより学習の意欲をかき立てました。
課題・試験について	私が選択した科目は他の人と比べても珍しく、試験の負担が少ないものが多かったですが、しかしその一方で、日々の課題図書や復習の量が非常に多く、授業外での勉強が大変だったという印象が強いです。
大学外の活動について	短期のサマーセッションということもあり、大学外の活動はあまり行われていませんでした。
留学目的の達成度について (留学を経験して感じたこと、成長したことを踏まえて)	留学の目的であった、人工知能の授業を取ることができ、またその分野で自分のメンターの存在に出会うことができたので、留学以降、自分が今以上に目標に向かって邁進できる環境ができました。そのため、今回の留学経験は留学時の成長だけでなく、留学後の成長の手助けとなる、実りのあるものであったと感じます。
留学を志す人へ 「これを知っておいて欲しい」と思うこと、アドバイス等	残酷なようですが「留学をすれば、自分は変わる」ということにはないように考えます。留学すると〇〇になるみたいな、留学を目的にするのではなく、あくまで自分が〇〇になる、変わるための手段として捉えることが留学に対する正しい認識ではないでしょうか。留学はゴールではなく、あくまでアプローチの一つだということを頭に入れた上で、留学が提供する機会やチャンスを考え、目的とのミスマッチがないか、もしくは目的達成に必要な不可欠であるかどうかを考えた上で留学するかどうかを決めるのがいいと思います。ただ漠然と留学に行きたいと考えるのではなく、現在の自分と目標までの間に留学が必要だと確信できれば、留学は、現在と将来の間の道筋をより鮮明に可視化するものであり、それはあなたのやる気や努力の量や質にも変わってくるのではないのでしょうか。

